

平成26年8月3日（日）
平成26年度在宅医療従事者能力向上研修

連携拠点事業での体験 ～困難事例と解決方法～

一宮市医師会担当理事 脇田 久

本日の発表内容

期待どおりにいかない 事業を振り返り
その原因と解決方法を考える



事業の振り返り



原因の分析



解決方法の考察

事業について

一宮市地域連携アセスメントシート試行運用

- 多職種が一貫性のあるサービスを提供するには **迅速な情報共有**が欠かせない
- 患者情報共有様式の **市内共通化**を目指す

情報共有を一元化して 多職種連携を促進 する

試行運用までの経緯

3月 シートの作成

- ・多職種から原案への意見を募る
- ・検討会で意見をもとにシート作成

4月 実施方法の検討

- ・試行運用の手引きを作成
- ・試行運用対象施設を決定

5月 対象施設に依頼

- ・試行運用説明会の開催
(すべての病院・包括支援センター)

【一宮市在宅医療連携拠点推進事業】

一宮市地域連携アセスメントシート

試行運用の手引き

作成日：平成26年4月16日 (ver. 1)

一宮市医師会 在宅医療連携推進委員会

目次

1 はじめに ～ 試行運用にご協力のお願い ～	1
2 試行運用方法、意見募集	2
3 記載方法等	3

<様式・資料>

● 一宮市地域連携アセスメントシート	4, 5
● 別表1『改訂 長谷川式簡易認知症評価スケール (HDS-R)』	6
● 別表2『機能的自立度評価表 (FIM)』	7
● 別表3『障害高齢者の日常生活自立度 (嚙たきり度)』	8
● 別表4『認知症高齢者の日常生活自立度』	9
● 別表5『手段的日常生活活動 (IADL)』	10
● 一宮市地域連携アセスメントシートへの意見書	11
● 資料 一宮市医師会在宅医療連携推進委員会 委員名簿	12

制作・発行 一宮市医師会在宅医療連携推進委員会
(窓口：一宮市医師会事務局)
一宮市美杉町3丁目2番地 一宮市医師会館
TEL: 0568-71-7531 FAX: 0568-72-1447
E-mail: info@or@hmc.ne.jp

試行運用の現実

試行運用開始から2か月が経過したが
ほとんど **利用** されていない

より具体的な問題を抽出する以前に
運用自体が困難 という問題が生じた

事業の振り返り



原因の分析



解決方法の考察

なぜ利用されないのか

対象施設から寄せられた意見

- 使い方自体がよくわからない
- 既存様式との住み分けが難しい
- 記載内容が細かすぎて作成の負担が大きい
- 個人情報の取扱いが不明

現場は **迷い** ニーズも **乖離**

直接的な原因

■ ニーズの把握が不十分

当初は関係者を直接訪問し意見を伺うプランもあったが事業スケジュールを優先して書面郵送で把握を行った

■ 運用ルールが曖昧

委員会で試行運用ルールを検討したが一本化できず
いろいろな方が様々なシーンで自由に利用する方針にした

企画検討の段階で問題はないか？

根本的な原因

委員会は十分に機能しているか？

- 月1回開催、約1時間強
- 進捗管理を含め事業に関する **すべての事項** を扱う
- 議論を持ち越すと **最低1か月** の遅れが生じる
- 予定議題の審議だけでほぼ時間終了

スケジュールも大事

時間なく議論切上げ

課題が困難なほど 議論が深められない

事業の振り返り



原因の分析



解決方法の考察

試行運用ニーズの再把握（直接原因）

- アセスメントシート試行運用報告会を開催して担当者からの声を直接聞く
- 報告会は多人数にならないよう、病院だけ、包括支援センターだけでそれぞれ開催する
- 当事者のニーズや課題を十分に理解し、それに基づいた運用を心掛ける

会議体制の改善（根本原因）

- 委員会は引き続き進捗管理・予定議題の審議を行う
- 十分な議論が求められる課題は、一部委員で構成するWGで別途検討する（月1回）
- WGのテーマによっては、委員外の関係者にも会議に加わってもらう
- 各論に注目しすぎて、本来の目的を見失わないように心掛ける

まとめ

事業下半期に向けて

- 生の声を聞く

間接的な情報で判断せず、面倒でも**当事者から直接聞く**

- バランスのとれた会議運営

一つにすべてまとめようとせず、**テーマごとに設定**する

- 事業項目（各論）に注目しすぎない

在宅医療連携の整備が目的であり、各事業項目（各論）はそのための手段に過ぎない